

病虫害発生予察予報第3号（7月の予報）

佐賀県

目次

1. 7月の病虫害	1
2. 気象概要	2
3. 予報の内容・根拠等について	2
3. 7月の予報	
普通作物（水稻）	3
果樹（カンキツ、ナシ、ブドウ、果樹全般）	11
茶	17
野菜（イチゴ、アスパラガス）	20
4. 病虫害診断状況	25
5. 全国・佐賀県で多発生している病虫害及び新たに発生した病虫害	26
6. 農薬の適正使用について	27

今月のトピックス

6～8月は、農薬危害防止運動の実施期間となっています。農薬の安全かつ適正な使用や保管管理を徹底しましょう。



水稻のスクミリンゴガイ



カンキツ黒点病



イチゴのうどんこ病



チャのクワシロカイガラムシ（越冬世代）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

2. 気象概要

【3ヶ月予報 平成26年6月25日 福岡管区気象台発表】

7月 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

7月の要素別確率(%)

要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	30	40	30
降水量	20	40	40

各病害虫の「予報の根拠」として、上記の向こう1か月の気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

上記の気象予報(確率予報)の内容について、本文中では便宜上、「気温並」、「降水量やや多」と簡略的に表現しています。

【参考】

要素	平年値 (佐賀市)	平年差(比)の平年並の範囲 (九州北部地方)
7月の平均気温	26.8℃	-0.4℃ ~ +0.4℃
7月の降水量	338.5mm	61% ~ 129%

3. 予報の内容・根拠等について

病害虫の発生量(平年比)

○予報の発生量は平年(佐賀県の過去10年間)及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

○留意点として、平年値との比較であるため、平年値が低い病害虫は、「平年より多い」場合でも見かけの発生は多くないことがあります。一方、発生が毎年目立ち、平年値が高い病害虫は、「平年並」や「平年よりやや少ない」場合でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

予報の根拠

○予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

○それぞれの条件は、少発生(-)、やや少発生(-~±)、並発生(±)、やや多発生(±~+)、多発生(+)として示し、+-を総合的に判断して発生量を予想しています。

写真

○1ページ目には、予報で対象とした病害虫の写真を抜粋して掲載しています。

○3ページ目以降には、巡回調査時の各作物の生育状況の写真を掲載しています。

4. 7月の予報

普通作物

【概要】

作物名	病虫害名	発生量		病虫害防除のてびきの記載ページ	備考
		平年比	前年比		
早期水稻 (上場地域)	穂いもち	やや多	やや多	137~143	
	紋枯病	やや多	やや多	144~146	
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	165~167 181~183	
早植え水稻	葉いもち	やや多	多	137~143	
普通期水稻	葉いもち	やや多	やや多	137~143	
早植え・ 普通期水稻	セジロウンカ	並	並	157~160	
	トビイロウンカ	並	並	153~157	
	コブノメイガ	並	並	162~164	

【特記事項】

1. 補植苗や畦畔に放置された残り苗に、苗いもちの発生が一部でみられている。発生がみられた苗のみならず発生がみられなくても、補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに除去する。
2. セジロウンカについては、早生・中生品種で1株当たり成虫が5頭以上、晩生品種（ヒヨクモチ等）で1株当たり成虫が10頭以上寄生していた場合は、飛来成虫あるいはその次世代ふ化幼虫を対象とした防除を行う。
3. コブノメイガについては、早植え水稻や夢しずく等の品種では止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。
4. スクミリングガイ発生圃場では浅水管理を徹底するとともに、発生が多い場合は薬剤防除を行う。
5. 今後のウンカ類及びコブノメイガの飛来状況は、[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo.html) (http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo.html) を参考にする。

水稻（早期、上場地域）

（巡回調査日：6月19日）



巡回調査時の生育状況

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、葉いもちの発生株率は、1.3%（平年1.5%、前年3.0%）であり、平年並で前年よりやや少ない。〈±〉
- (2)BLASTAM（6月1日～24日）では、葉いもちの感染好適条件が6月4日、6月21日に2地点、6月3日、7日、11日に1地点、準感染好適条件が6月21日に1地点で出現した（表1）。〈±〉
- (3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1)葉いもちの進展型病斑（写真1）がみられる圃場では、早急に防除を行う。
- (2)葉いもちの発生が認められた圃場では、穂ばらみ期に穂いもちの防除を行う。さらに、葉いもちの発生が上位葉に見られるなど穂いもちの多発が予想される場合には、穂揃い期にも防除を行う。
- (3)今後のBLASTAMによる感染好適条件の出現に注意し、圃場における発生状況を確認する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。

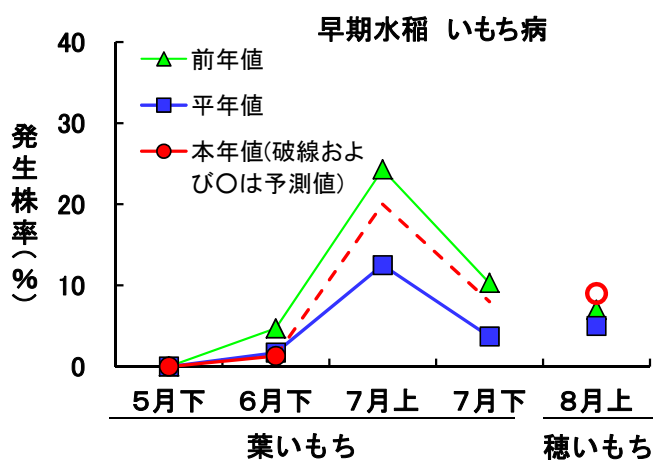


写真1 葉いもちの進展型病斑

円形ないし楕円形で、中央が灰白色、周縁が紫黒色となる

表 1 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3日	10	—	—	—	—	—	—	—	10	10	—
4日	10	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—
5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7日	—	10	—	—	—	—	10	—	—	—	—
8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11日	—	—	—	10	—	—	—	—	10	—	10
12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	—
14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—
18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	4	—	10	10	—	—	—	—	4	10
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 注) 1 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は20℃未満だが、湿潤が10時間以上)
 2 : 準好適条件 (前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)
 3 : 準好適条件 (湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)
 4 : 準好適条件 (湿潤期間中の気温は比較的低い、湿潤が10時間以上)
 10 : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
 — : 好適あるいは準好適条件の出現なし
 ? : 判定不能

ブラスタム (BLASTAM) 情報の使用上の注意

- BLASTAMは、気象条件(アメダスデータ)のみによって葉いもちの発生を予測するシステムである。しかしながら、実際の圃場における葉いもちの発生には、気象条件の外にも、菌の多少(密度)、イネ品種による抵抗性や体質、薬剤防除条件などが大きく関与している。したがって、BLASTAMは、あくまでも葉いもち発生予察の参考資料の一つとして扱う。
- BLASTAMは、葉いもちを対象としており、水稻の移植約20日後からの35日間(6月15日移植の場合、7月5日~8月10日)が適用期間とされている。ただし箱施薬が行われた圃場で、薬剤の効果を持続期間にはBLASTAMは適用できないので注意する。
- 葉いもちは、菌が進入してから発病するまで約1週間かかるため、BLASTAMで感染(準感染)好適条件が現れた場合、その約1週間後から初発あるいは病斑数が急激に増加することが予想される。
- BLASTAMでの感染(準感染)好適条件の出現回数が多い場合、葉いもちの発生面積が急増し、発病程度も激しくなることが予想される。

2. 紋枯病

1) 予報の内容

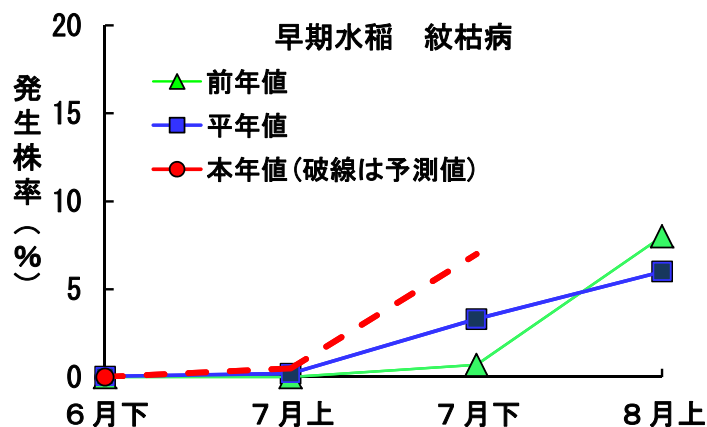
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生を認めていない（発生株率：平年0%、前年0%）。〈±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期水稲の出穂期～登熟期は気温が高い時期であり、本病が進展しやすいので、出穂の20～10日前（粒剤の場合は30～20日前）を中心に防除する。
- (2) 薬剤は株元に十分かかるように散布する。



3. 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 水田隣接のイネ科植物でのすくい取り調査（6月18～23日）による、カメムシ類の発生は平年よりやや多い（表2）。〈±～+〉
- (2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地（畦畔、休耕地、空き地等）は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるので、除草を徹底する。なお、水稲の出穂直前に除草すると水田内に斑点米カメムシ類を呼び込むことになるので、水稲の出穂10日前までに除草する。
- (2) 斑点米カメムシ類は、山麓地帯や畦畔及び休耕地にイネ科雑草が多い地域で発生密度が高い傾向にある。各地域ですくい取り調査や見取り調査を行い、防除要否（穂揃い期～乳熟期に、ほ場内で20回すくい取りで5頭以上いる場合は防除を実施）を判断する。
- (3) 多発生時は穂揃い期とその7～10日後に防除を行う。少発生の場合は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に防除を行う。

表2 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2014年6月18~23日)

調査地点	場所	草種	クモハカメムシ		ホリハラカメムシ		シラホシカメムシ類		アサジカスミカメ		ミナミアカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
小城市三日月町	道端	イタリアンライグラス	0	0	1	0	1	0	17	13	0
小城市小城町池上	空き地	エノコログサ類	0	0	21	0	1	0	39	0	0
武雄市朝日町	道端	イタリアンライグラス	0	0	0	0	0	0	56	19	0
武雄市若木町	空き地	イタリアンライグラス	23	0	4	0	18	0	96	166	0
佐賀市東与賀町	道端	エノコログサ類	5	0	0	0	0	0	0	0	0
佐賀市諸富町	道端	エノコログサ類	6	0	0	0	0	0	9	0	0
佐賀市蓮池	空き地	イタリアンライグラス	9	0	6	0	1	0	78	197	0
唐津市鎮西町	空き地	イタリアンライグラス・エンバク	0	0	4	0	0	0	0	0	0
唐津市鏡	道端	イタリアンライグラス	0	0	1	0	0	0	111	0	0
鳥栖市三島町	道端	イタリアンライグラス	0	0	8	0	1	0	16	2	0
みやき町中津隈	道端	イタリアンライグラス	1	0	0	0	1	0	15	25	0
白石町福富	空き地	エノコログサ類	2	0	0	0	0	0	6	0	1
鹿島市常広	空き地	エノコログサ類	2	0	0	0	0	0	22	7	0
嬉野市塩田町	空き地	エノコログサ類	2	0	0	0	1	0	13	0	0
平均(本年)			3.6	0.0	3.2	0.0	1.7	0.0	34.1	30.6	0.1
前年			5.6	0.1	1.0	0.1	0.3	0.1	10.3	0.8	0.0
平年(過去10年の平均)			4.3	0.1	1.7	0.6	0.6	0.1	38.0	16.9	0.1

水稻(山間早植え)

(巡回調査日: 6月19日)



巡回調査時の生育状況

1. 葉いもち

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、葉いもちの発生株率は、0.3%(平年0.0%、前年0.0%)であり、平年及び前年よりやや多い。〈±~+〉

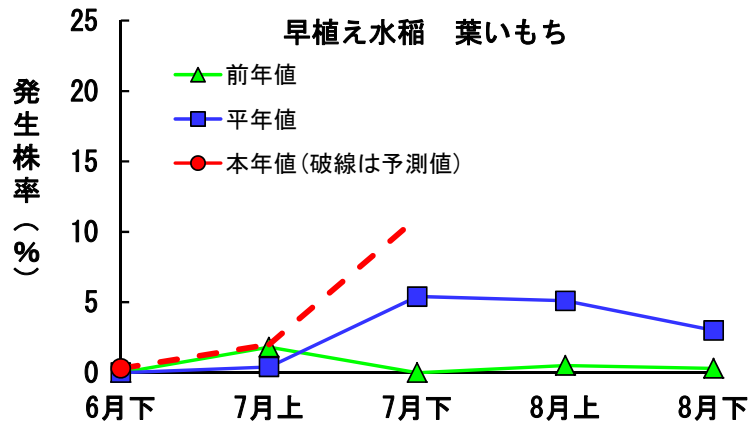
(2)BLASTAM(6月11日~24日)【5月22日移植の場合:適用期間6月11日~7月15日】では、葉いもちの感染好適条件が6月21日に2地点、6月11日に1地点、準感染好適条件が6月21日に1地点で出現した(表1)。〈±〉

(3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多:±~+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉いもちの進展型病斑(早期水稻の項の写真1)が確認された場合は、早急に本田防除を実施する。

(2)今後のBLASTAMによる感染好適条件の出現に注意する([佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照)。



水稻（普通期水稻）

（巡回調査日：6月18～23日）



巡回調査時の生育状況

1. 葉いもち

1) 予報の内容

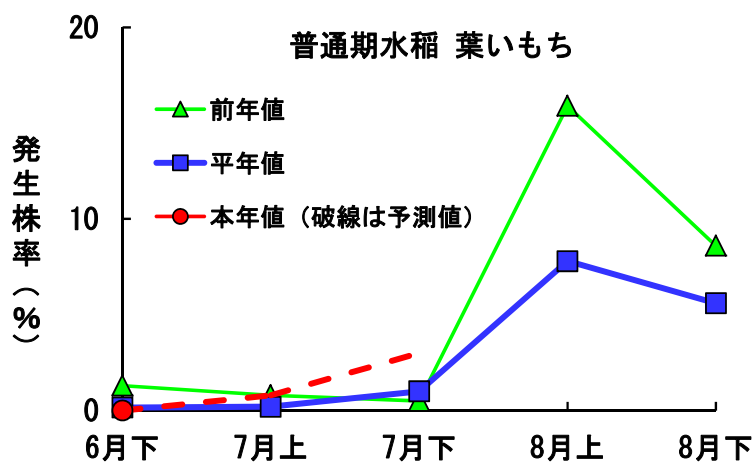
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、葉いもちの発生を認めていない（平年0.16%、前年0.3%）。〈±〉
- (2) 一部圃場では、補植苗や畦畔に放置された残り苗に、苗いもちの発生を認めている。〈±～+〉
- (3) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植苗や畦畔に放置された残り苗は、葉いもちの伝染源になるので速やかに除去する。
- (2) 葉いもちの進展型病斑（早期水稻の項の写真1）が確認された場合は、早急に本田防除を実施する。
- (3) 今後のBLASTAMによる感染好適条件の出現に注意し、圃場における発生状況を確認する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。



水稻（早植え、普通期）

（巡回調査日：6月18～23日）

1. セジロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) これまでの飛来量は、平年より少なく推移している（表3）。〈－〉
- (2) 今後、梅雨明け頃にかけてまとまった飛来が予想される。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の飛来状況に注意する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。
- (2) 早生・中生品種で1株当たり成虫が5頭以上、晩生品種（ヒヨクモチ等）で1株当たり成虫が10頭以上寄生していた場合は、飛来成虫あるいはその次世代ふ化幼虫を対象とした防除を行う。

2. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) これまでのところ、本県での飛来は確認されていない（表3）。〈－～±〉
- (2) 今後、梅雨明け頃にかけてまとまった飛来が予想される。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する（[佐賀県農業技術防除センターのホームページ](#)を参照）。

3. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) これまでの飛来量は、平年並に推移している（表3）。〈±〉
- (2) 今後、さらに、梅雨明け頃にかけてまとまった飛来が予想される。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の飛来状況に注意する（[佐賀県農業技術センターのホームページ](#)を参照）。
- (2) 早植え水稻や夢しずく等の品種では止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、多飛来した場合や新世代成虫の密度が高い場合には、飛来あるいは発蛾最盛期の1週間後に防除を行う。

表3 ウンカ類及びコブノメイガの飛来状況（平成26年）

月	日	トビイロウンカ			セジロウンカ			コブノメイガ					長崎県		
		佐賀県			佐賀県			佐賀県					長崎県		
		川副町 ネット トラップ	川副町 ライト トラップ	嬉野町 ライト トラップ	川副町 ネット トラップ	川副町 ライト トラップ	嬉野町 ライト トラップ	川副町 フェロモン トラップ	川副町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	千代田町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	伊万里市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	白石町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	塩田町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	諫早市 フェロモン トラップ	諫早市 採集箱 (蛍光灯)
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	-	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0						
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0						
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0						
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	21日	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0			
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0						
	23日														
	24日														
	25日														
	26日														
	27日														
	28日														
	29日														
	30日														
6月1日～22 日の総誘数 (本年)		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
6月1日～25 日の総誘数 (平年)		0.6	1.8	251.8	124.2	63.8	1225.2	-	3.2	-	-	-	-	-	-

注1) ウンカ類：川副町ネットトラップと予察灯は農業試験研究センター調査。嬉野予察灯は農業技術防除センター調査。
 平年値は川副町ネットトラップと予察灯は過去34年、嬉野町予察灯は過去27年の平均値。嬉野町予察灯は、飛来数が
 極端に多かった平成3年を除外した数値。

注2) コブノメイガ：川副町は農業試験研究センターで調査。千代田町、白石町、伊万里市、塩田町は各調査員が調査。
 平年値の川副町ライトトラップは過去27年の平均値。川副町のフェロモントラップは、農業技術防除センターが調査。
 長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

果 樹

【概要】

作物名	病虫害名	発 生 量		病虫害防除 のてびきの 記載ページ	備 考
		平年比	前年比		
カンキツ	そうか病	並	並	216～218	
	かいよう病	やや少	並	220～222	
	黒点病	やや多	やや多	218～220	
	ミカンハダニ	並	やや多	244～249	
	チャノキロアザミウマ	並	並	237～244	
ナシ	黒星病	やや多	やや多	282～287	平成26年5月9日付け病虫害対策資料第3号参照
	ナシメシクイ	並	並	298～301	
	ハダニ類	並	並	303～306	
ブドウ	べと病	並	やや多	326～328	
	褐斑病	並	並	329～330	
果樹全般	カメムシ類	並	やや多	カンキツ：251～254 ナシ：301～302 ブドウ：342 平成26年5月21日付け病虫害対策資料第4号 参照	

【特記事項】

[カンキツ]

- 梅雨期はカンキツ黒点病の主要感染期にあたるので防除を徹底する。マンゼブ水和剤散布の積算降雨量が200mm～250mm（6月にマシン油乳剤を加用して散布した場合は300～400mm）に達した時点を次回散布の目安とする。

[ナシ]

- ナシでは、黒星病の発病葉や発病果実は除去し、園外で処分する。また、6月下旬～7月上旬は主要な感染期であるため、DMI剤を用いた防除を必ず実施する。

[キウイフルーツ]

- 県内において、かいよう病の発生が確認されている。疑わしい症状が見つかった場合は、すぐに関係機関へ連絡する。（平成26年5月22日付け病虫害発生予察情報特殊報第2号参照）

[果樹全般]

- カメムシ類が、園によって飛来する場合がありますので、こまめに園内を見て回り、確認した場合は早急に防除を行う。



1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、温州みかんでの発生を認めていない。（発病葉率：平年0.7%、前年0%、発病果率：平年0%、前年0%）〈～±〉

(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

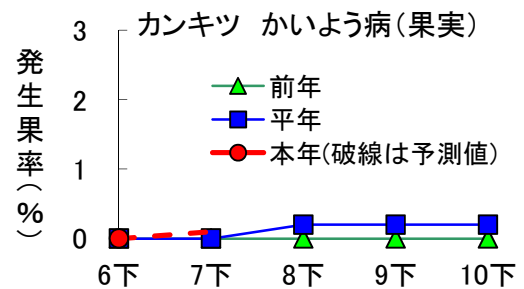
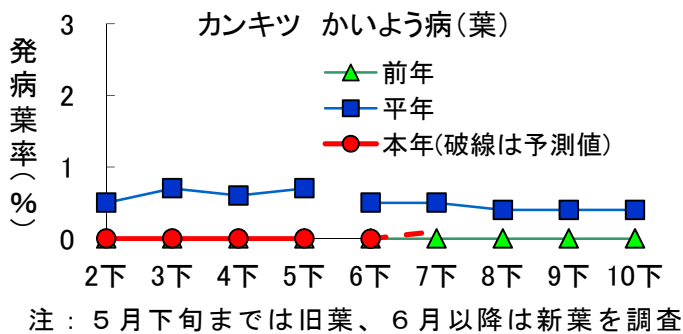
3) 防除上注意すべき事項

(1)本病が前年に発生した園や、風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、いよかん、はるみ等）が植栽された園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、無機銅水和剤（クレフノン200倍加用）による防除を行う。散布間隔は20～25日とする。

(2)銅水和剤（クレフノン200倍加用）にマシン油乳剤やジマンダイセン水和剤を加用すると銅水和剤の防除効果が低下するので控える。

(3)発病した枝や葉は今後の伝染源となるので除去する。ただし、強剪定すると枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので行わない。

(4)台風の襲来が予想される場合は、襲来前までに必ず防除を行う。



2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、温州みかん果実での発生を認めていない。（発病果率：平年0%、前年0%）〈±〉

(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

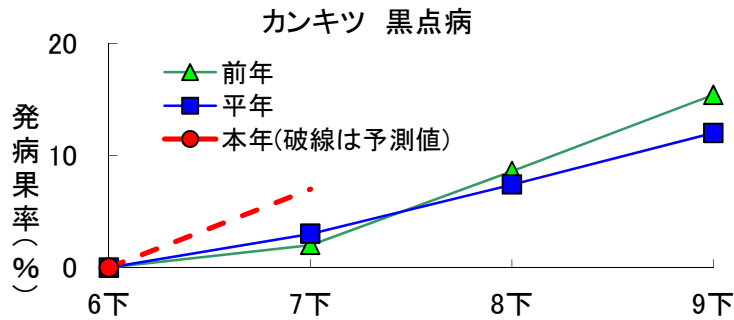
3) 防除上注意すべき事項

(1)剪定等で切り落とした枝は、圃場外へ持ち出して適切に処分する。

(2)梅雨期は果実への主要感染期にあたるので防除を徹底する。マンゼブ水和剤散布後の積算降雨量が200mm～250mmに達した時点を次回の散布の目安とする。

(3)6月の防除薬剤にマシン油乳剤を加用した場合は、薬剤散布後の積算降雨量300～400mmを次回の防除の目安とする。なお、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次回の散布を行う。

(4)園内湿度を下げるために防風樹の剪定等を行い、通風をよくする。



3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

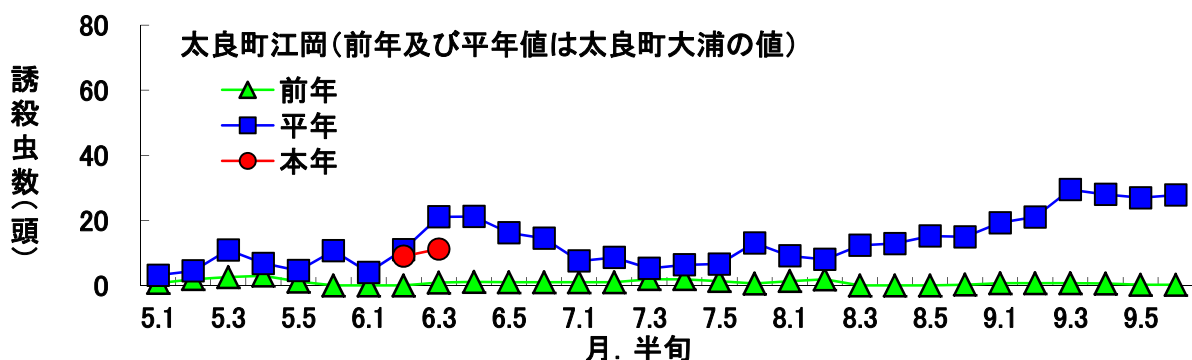
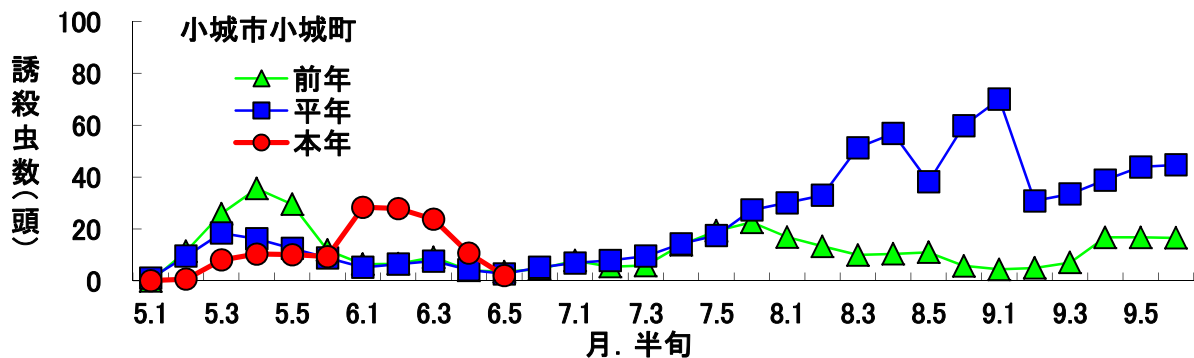
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 小城市小城町の果樹試験場内に設置した黄色粘着トラップによる6月1半旬～6月3半旬の誘殺虫数は、平年及び前年よりやや多く推移している。〈±～+〉
- (2) 藤津郡太良町のカンキツ園内に設置した黄色粘着トラップによる6月1半旬～6月3半旬の誘殺虫数は、平年よりやや少なく前年よりやや多く推移している。〈-～±〉
- (3) 気象予報では、やや少発生条件となっている。〈-～±〉（降水量やや多：-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多い地域では、7月中下旬に薬剤防除を徹底する。
- (2) イヌマキ、サンゴジュ等は発生源となるので、防風樹として植栽している園では注意する。



黄色粘着板トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺虫数の推移

ナシ

(巡回調査日：6月20日)



巡回調査時の生育状況

1. 黒星病

1) 予報の内容

発生量：**平年よりやや多い**（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生葉率は5.5%（平年2.4%、前年1.2%）であり、平年及び前年より多いが、発生が多い圃場は一部に限られる。〈±～+〉

(2)巡回調査では、発生果率は6.0%（平年0.9%、前年1.0%）であり、平年及び前年より多いが、発生が多い圃場は一部に限られる。〈±～+〉

(3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

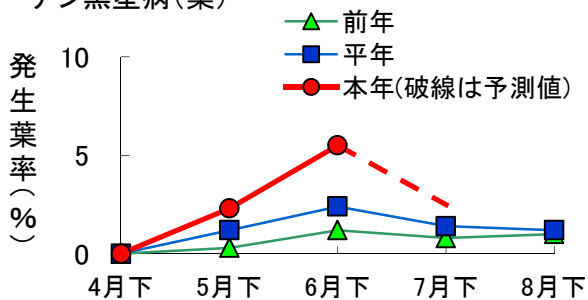
(1)6月下旬～7月上旬は果実の主要感染期となるので、DMI剤を十分量散布し防除を徹底する。

(2)黒星病の発病葉や発病果実は除去し、園外で処分する。

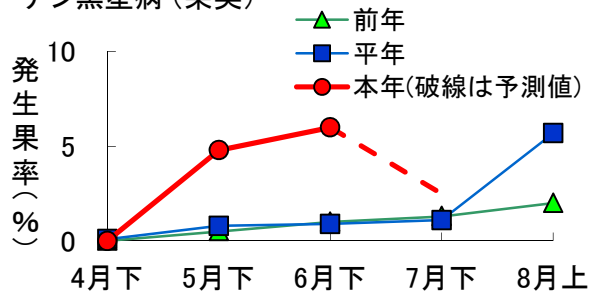
(3)スピードスプレーヤーで薬剤散布する場合は、全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなどして、丁寧に散布する。

(4)その他詳細は、平成26年5月9日付け病害虫対策資料第3号を参照する。

ナシ黒星病(葉)



ナシ黒星病(果実)



2. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

発生量：**平年並**（前年並）

2) 予報の根拠

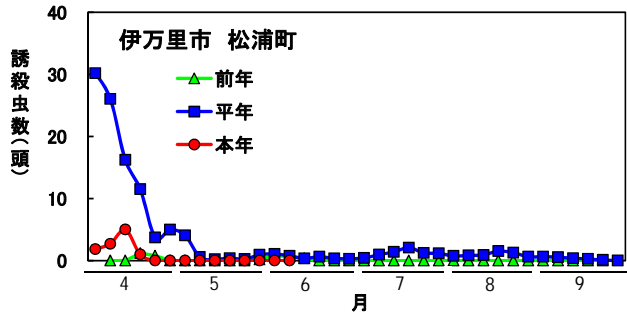
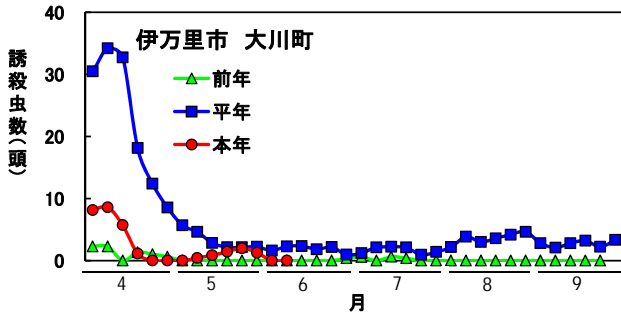
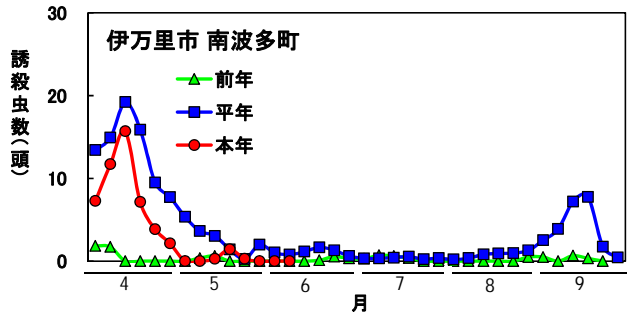
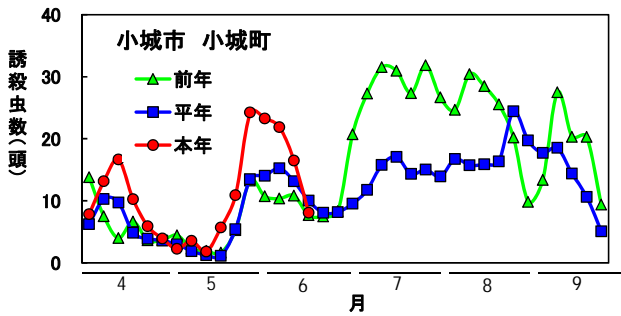
(1)フェロモントラップでの6月上中旬の誘殺数は、平年及び前年並で推移している。〈±〉

(2)気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1)7月以降は、発生世代が重なり、各世代の発生ピークが把握できないため、7～10日毎に薬剤散布を行う。

(2)交信攪乱フェロモン資材を設置している園においても、10～14日間隔では薬剤散布を行う。



フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺推移
(小城市は果樹試験場、伊万里市は西松浦農業改良普及センター調査)

ブドウ

(巡回調査日：6月20日～23日)



巡回調査時の生育状況

1. ベと病

1) 予報の内容

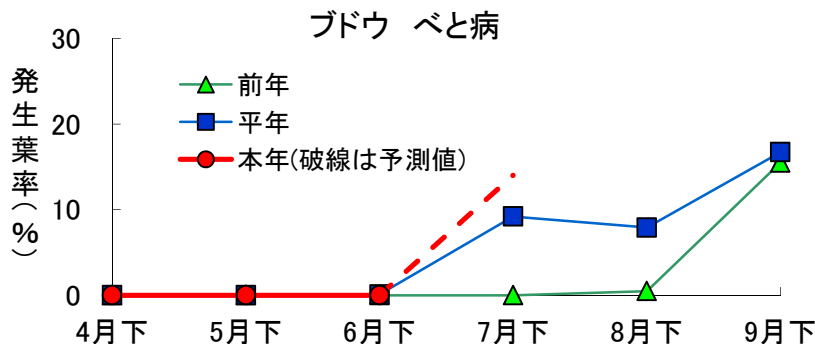
発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生を認めていない（発生葉率：平年0.1%、前年0%）。〈±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（降水量やや多：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨によって発病が進展するので、降雨前の予防散布を行う。
- (2) 罹病葉は、二次伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。
- (3) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布するよう心懸ける。
- (4) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対する感受性が低下しているため、同系統薬剤を本病の防除には使用しない。



果樹全般

1. カメモムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 予察灯（県内3地点）による平均誘殺数は、平年及び前年並で推移している（図1）。〈±〉

(2) フェロモントラップ（県内6地点）による平均誘殺数は、平年並で前年よりやや多く推移している（図2）。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) こまめに園内を見て回り、確認した場合は早急に防除を行う。

(2) 果樹カメモムシ類は樹高の高い樹木に一旦飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪除する。

(3) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサーチェンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。

(4) その他詳細については、平成26年5月21日付け病害虫対策資料第4号を参照する。

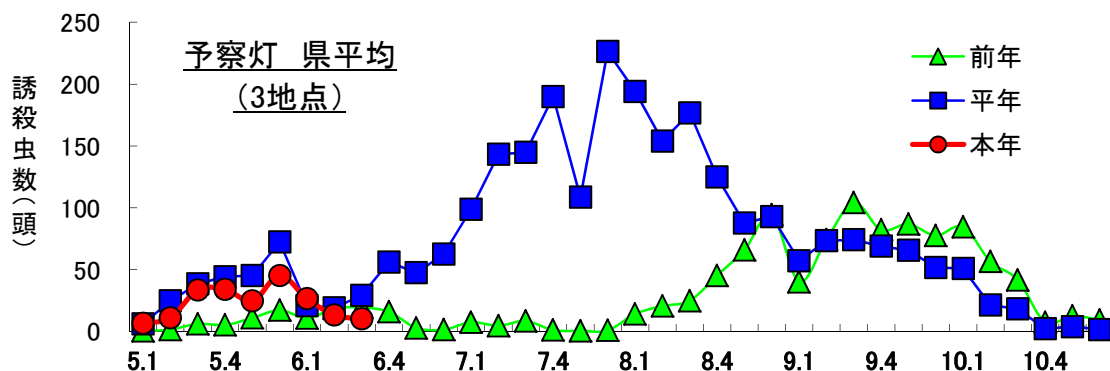


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメモムシ類の平均誘殺数の推移

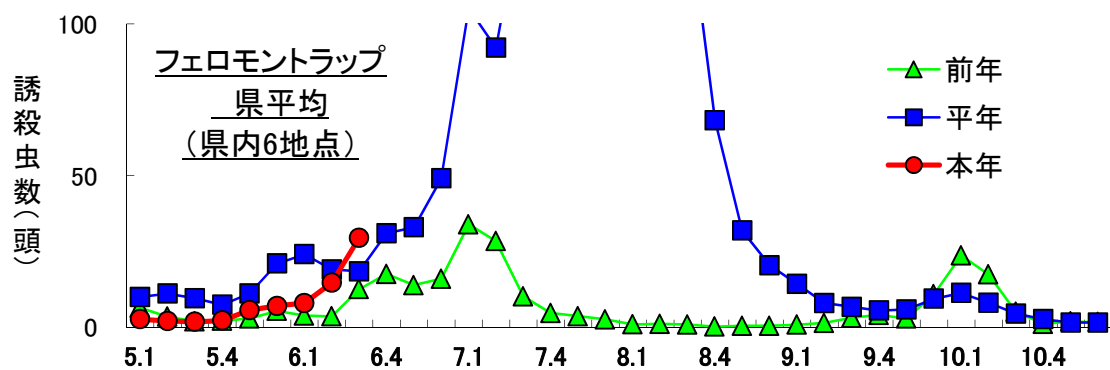


図2 フェロモントラップ（小城市、伊万里市、鹿島市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町）による果樹カメモムシ類の平均誘殺数の推移

茶

【概要】

作物名	病害虫名	発 生 量		病害虫防除の てびきの記載 ページ	備考
		平年比	前年比		
茶	炭疽病	並	並	393～394	
	カンザワハダニ	並	並	397～398	
	クワシロカイガラムシ	やや少	並	405～406	
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	やや多	402～403	
	チャノキイロアザミウマ	やや少	並	403～404	
	チャノコカクモンハマキ	やや少	並	400～402	
	チャノホソガ	やや少	並	399～400	

【特記事項】

1. 県内において、チャトゲコナジラミの発生が確認されている。疑わしい葉が見つかった場合には、すぐに関係機関へ連絡する（[平成26年4月9日付け病害虫発生予察情報特殊報第1号](#)参照）。防除対策は、ホームページ掲載の「チャトゲコナジラミの防除対策」を参照する。
2. クワシロカイガラムシの防除適期である第二世代幼虫ふ化最盛期は7月中～下旬である。園内の発生状況を観察して、適期に防除を行う。

茶

（巡回調査：6月20～23日）



巡回調査時の生育状況

1. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

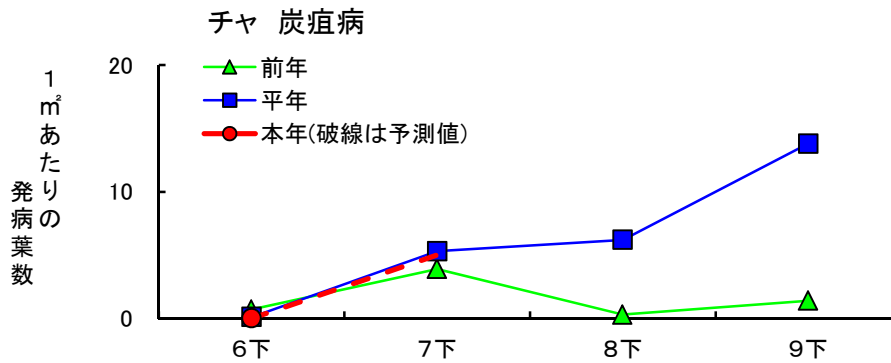
(1) 巡回調査では、発生を認めていない（1m²あたりの発病葉数：平年0.1枚、前年0.7枚）。〈－～±〉

(2) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±～＋〉（降水量やや多：±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病は雨滴により新芽に伝染するため、開葉初期の予防散布を徹底する。

(2) 天候等の影響で防除が遅れた園では、DMI剤等による防除を行う。



2. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

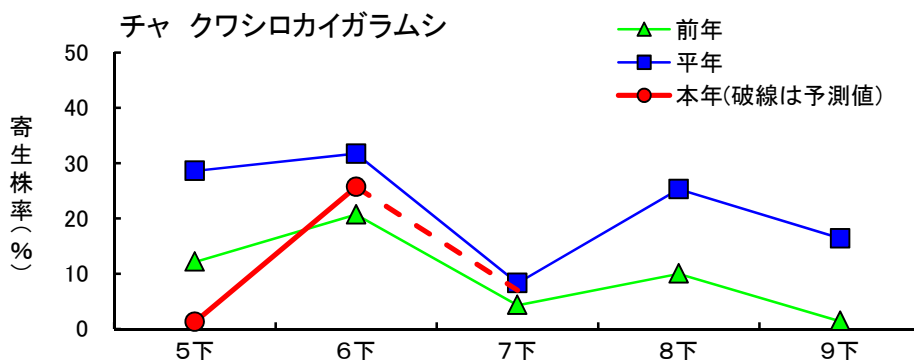
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は25.7%（平年31.7%、前年20.7%）で、平年及び前年並である。〈±〉

(2) 気象予報ではやや少発生の条件となっている。〈-〜±〉（降水量やや多：-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除適期である幼虫ふ化最盛期は7月中～下旬である。園内を観察して、適期に防除を行う。



3. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

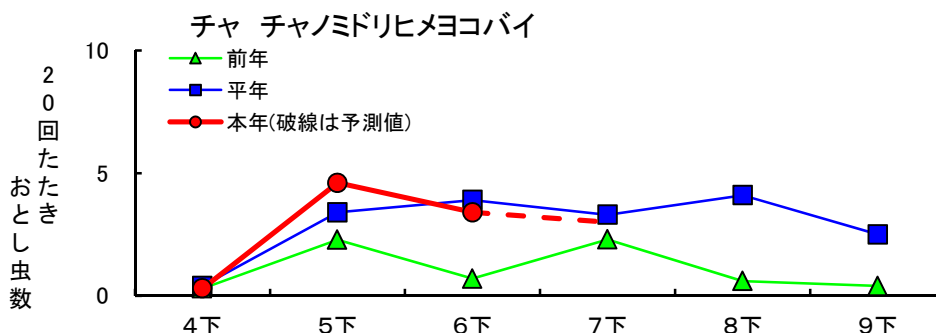
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、20回たたき落とし虫数は3.4頭（平年3.9頭、前年0.7頭）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

(2) 気象予報では並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。



4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、20回たたき落とし虫数は14.9頭（平年34.6頭、前年10.1頭）で、平年及び前年並である。〈±〉

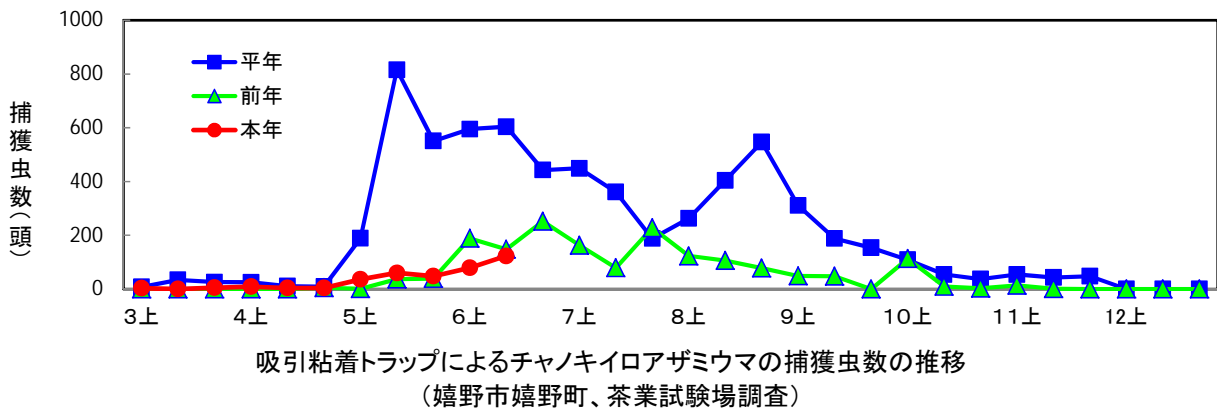
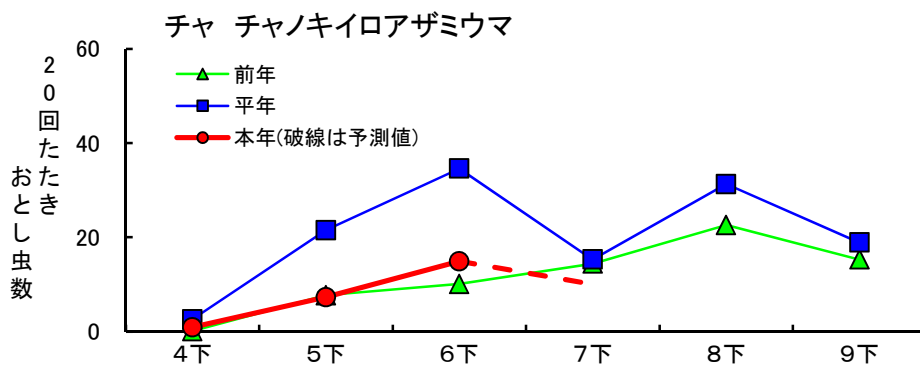
(2)吸引粘着トラップによる誘殺虫数は、平年より少なく前年並で推移している。〈-〉

(3)気象予報ではやや少発生条件となっている。〈-〜±〉（降水量やや多：-〜±）

3) 防除上注意すべき事項

(1)幼虫は葉裏に生息することが多いので、葉裏にも薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



野 菜

【概要】

作物名	病害虫名	発 生 量		病害虫防除の てびき記載頁	備考
		平年比	前年比		
イチゴ (育苗圃)	うどんこ病	多	多	183～186	平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号参照
	苗立枯症	多	多	187～193	
	ハダニ類	並	やや多	194～195	
	アブラムシ類	並	並	199～200	
アスパラ ガス	茎枯病	やや多	やや多	291～292	
	褐斑病	並	並	292～293	
	斑点病	やや多	多	292	
	アザミウマ類	並	やや少	294	
	ハダニ類	やや多	並	294～295	
	アブラムシ類	並	並	295	

【特記事項】

1. イチゴうどんこ病は、育苗圃での発生が本圃での発生につながるため、育苗期の薬剤防除を徹底し、健全苗の育成に努める（平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号参照）。
2. イチゴの炭疽病については、ビニル雨よけや水滴の小さい灌水装置を利用して、水はねによる菌の飛散を防ぐとともに、親株からの定期的な薬剤防除を徹底する。なお、ゲッター水和剤及びセイビアーフロアブル20については、耐性菌の発生・蔓延を防ぐため、育苗期における使用回数を各3回以内にとどめる（平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号参照）。
3. 施設果菜類では、栽培終了後にコナジラミ類やアザミウマ類が圃場外へ飛び出さないよう、ハウス密閉処理を行う（平成26年6月24日付け病害虫対策資料第5号参照）。
4. アスパラガスでは、茎枯病の発生を防ぐために、強い雨風のときはサイドビニルを下ろす等の対策を行う。

イチゴ（育苗圃）

（巡回調査：6月18日～23日）



巡回調査時の生育状況

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生株率は68.7%（平年47.2%、前年22.3%）であり、平年よりやや多く前年より多い。〈+～±〉

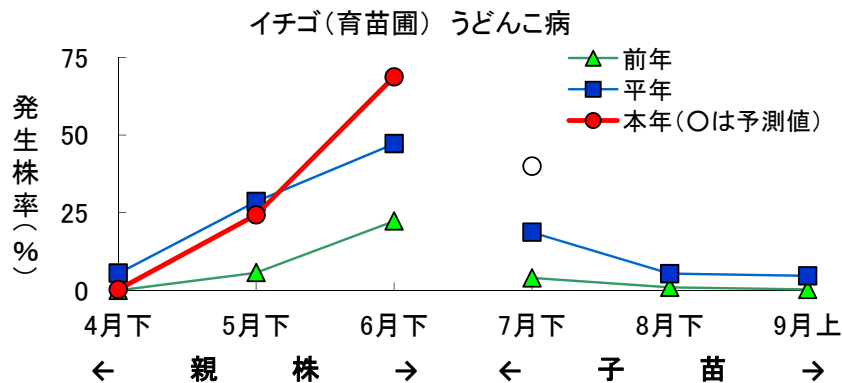
(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1)葉裏やランナー先端の子苗にも薬液が十分かかるように散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(3)詳細な防除対策は平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号を参照する。



2. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1)巡回調査では、発生株率は0.2%（平年0%、前年0%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉

(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±～+〉

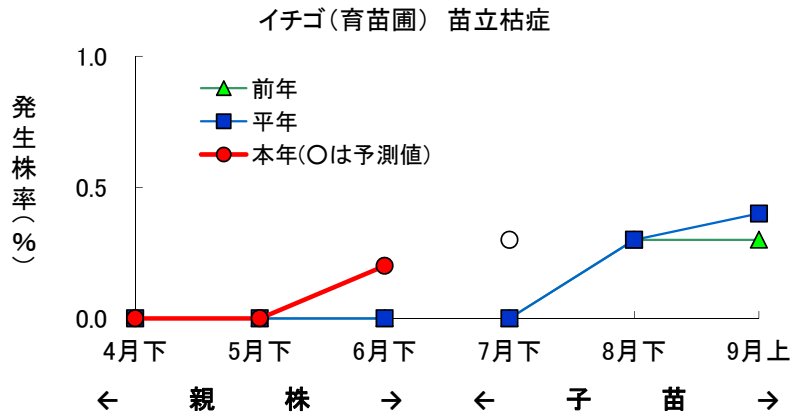
3) 防除上注意すべき事項

(1)降雨が多い梅雨期は病原菌の飛散、感染に好適な時期であるため、防除を徹底する。

(2)罹病株はすみやかに圃場外へ持ち出し、適切に処分する。

(3)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(4)詳細な防除対策は平成26年6月27日付け病害虫対策資料第6号を参照する。



3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

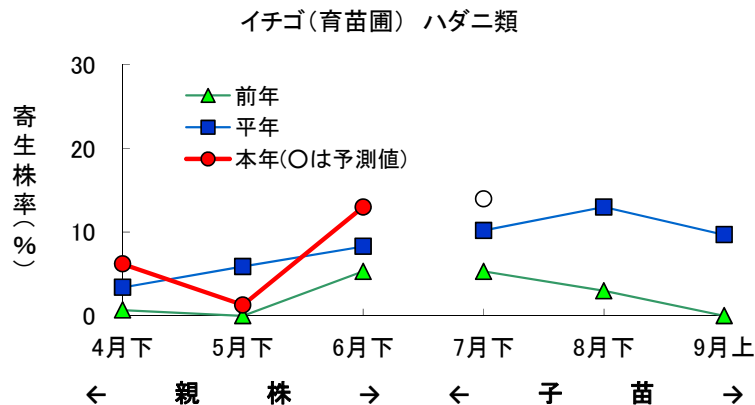
(1)巡回調査では、寄生株率は13.0%（平年8.3%、前年5.3%）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

(2)気象予報では、やや少発生条件となっている。〈降水量やや多：-〜±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1)本種は葉液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



アスパラガス

(巡回調査：6月18日～23日)



巡回調査時の生育状況

1. 茎枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

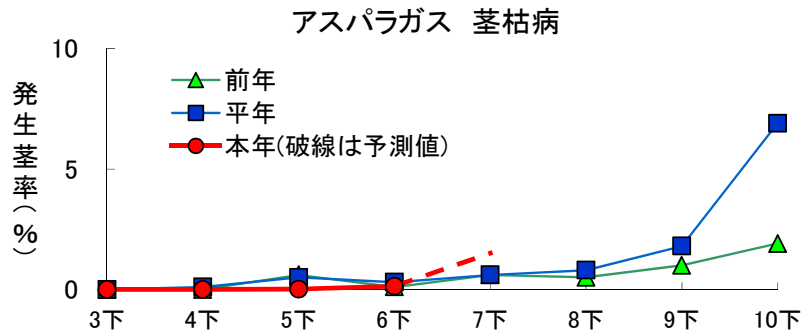
(1)巡回調査では、発生株率は0.13%（平年0.3%、前年0.1%）であり、平年及び前年並である。〈±〉

(2)気象予報では、やや多発生条件となっている。〈降水量やや多：±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1)罹病茎は早急に除去・処分し、防除を徹底する。

(2)雨の降り込みを防ぐため、強い雨風のときはサイドビニルを下ろす。



2. 褐斑病

1) 予報の内容

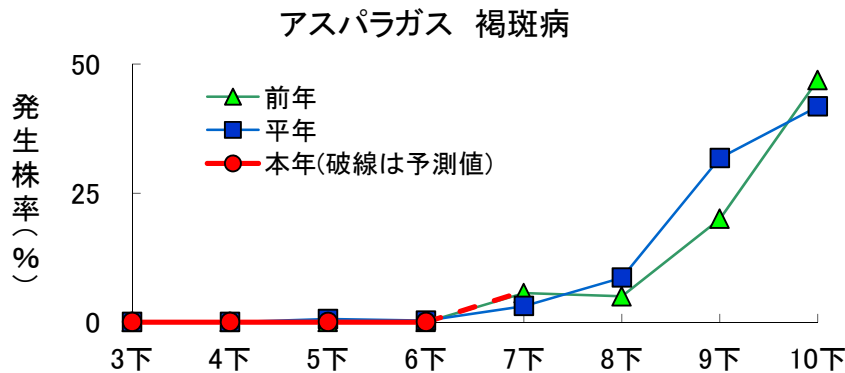
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生を認めていない（発生株率：平年0.3%、前年0%）。〈±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。
- (2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。



3. 斑点病

1) 予報の内容

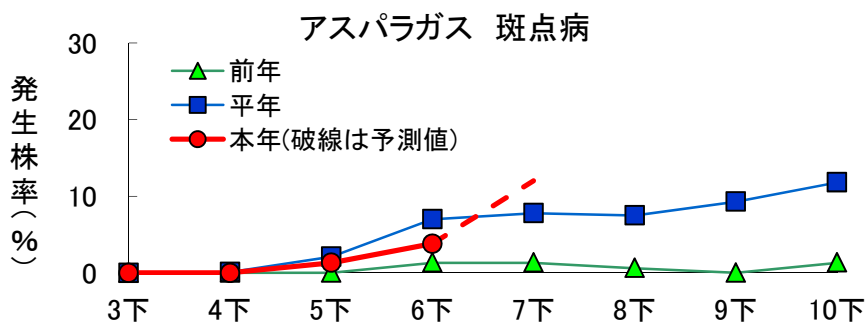
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は3.8%（平年7.0%、前年1.3%）であり、平年及び前年並である。〈±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈降水量やや多：±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。
- (2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。



4. アザミウマ類（ネギアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

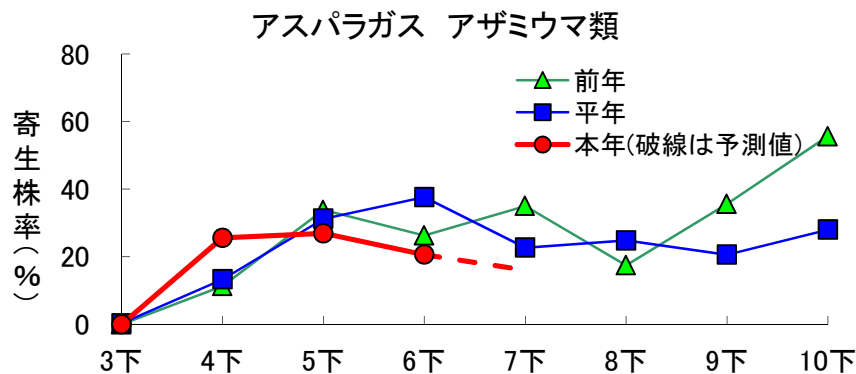
(1) 巡回調査では、寄生株率は20.6%（平年37.6%、前年26.3%）であり、平年よりやや少なく前年並である。〈-~±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている〈±〉。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

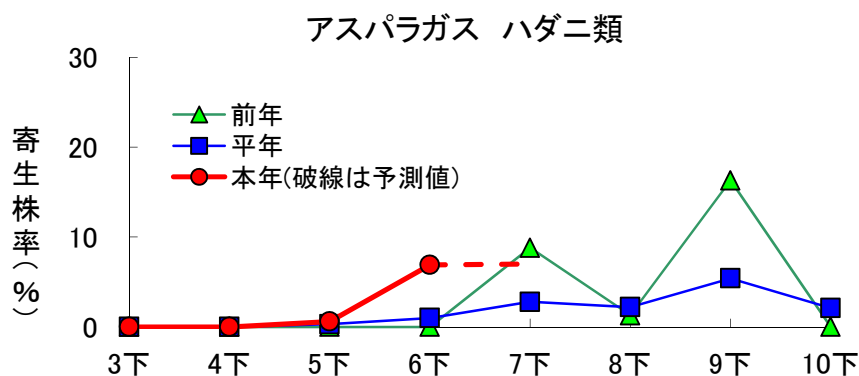
(1) 巡回調査では、寄生株率は6.9%（平年1.0%、前年0%）であり、平年及び前年より多いが、多発生の圃場は一部に限られる〈±~+〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている〈±〉。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. 病虫害等診断依頼状況

平成26年5月21日～平成26年6月20日までに農業技術防除センター及び各試験研究機関に持ち込まれ、
同期間中に診断が完了した病虫害の診断結果は次のとおりです。

作物名		依頼件数	診断結果(件数)
普通作	水稲	1	生理障害等(1)
	計	1	
果樹	カキ	1	カキノヒメヨコバイ(1)
	ブドウ	1	べと病(1)
	計	2	
野菜	アスパラガス	9	立枯病(3)、疫病(1)、軟腐病(1)、茎枯病(1)、薬害(1)、生理障害等(2)
	イチゴ	12	炭疽病(3)、萎黄病(2)、輪斑病(1)、アザミウマ類による食害(1)、コナダニ類による食害(1)、ネグサレセンチュウ類による食害(1)、生理障害等(3)
	オクラ	1	生理障害等(1)
	キュウリ	4	斑点細菌病(1)、黄化えそ病(1)、生理障害等(2)
	小ネギ	3	萎凋病(2)、生理障害等(1)
	ヤマイモ(自然薯)	1	生理障害等(1)
	タマネギ	3	灰色腐敗病(1)、紅色根腐病(1)、黒斑病(1)
	トマト	5	菌核病(2)、萎凋病(1)、葉かび病(1)、サビダニ類による食害(1)
	ニガウリ	2	アザミウマ類による食害(1)、生理障害等(1)
	パセリ	1	生理障害等(1)
	ハウレンソウ	1	苗立枯病(1)
	サツマイモ	1	生理障害等(1)
	レンコン	1	生理障害等(1)
	計	44	
花き	キク	1	えそ病(1)
	トルコギキョウ	4	根腐病(2)、青かび根腐病(1)、黄化えそ病(1)
	ホオズキ	3	斑点細菌病(1)、モザイク病(1)、生理障害等(1)
	リクニス	1	TSWVによるえそ症状(1)
	ポーチュラカ	1	立枯病(1)
	ハナショウブ	1	紋枯病(1)
	アスター	1	アザミウマ類による食害(1)
	ビオラ	1	斑点病(1)
	計	13	
	その他	甘草	1
計		1	

合計： 24 作物
61 件

内訳

糸状菌による病害	： 28件
細菌による病害	： 3件
ウイルス・ウィロイドによる病害	： 5件
害虫類	： 7件
線虫類	： 1件
生理障害等	： 17件
合計	61件

5. 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に5月24日～6月24日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）				
発信元	内容	日付	作物	病害虫名
埼玉県	注意報	2014/05/23	水稲	イネ縞葉枯病
茨城県	注意報	2014/05/25	果樹類	チャバネアオカメムシ
高知県	注意報	2014/05/26	果樹全般	果樹カメムシ類
栃木県	注意報	2014/05/29	水稲	イネ縞葉枯病
神奈川県	注意報	2014/05/30	ナシ、カキ、キウイフルーツ、ウメ等	果樹カメムシ類
神奈川県	注意報	2014/05/30	ナス、トマト、ピーマン等	オオタバコガ
千葉県	注意報	2014/05/30	果樹全般	果樹カメムシ類
大阪府	注意報	2014/05/30	果樹全般	果樹カメムシ類
東京都	注意報	2014/06/02	ナシ、ブドウ等	果樹カメムシ類
香川県	注意報	2014/06/03	モモ、ナシ、カキ、キウイフルーツ、ブドウ等	果樹カメムシ類
滋賀県	注意報	2014/06/05	果樹	果樹カメムシ類
栃木県	注意報	2014/06/06	果樹類	果樹カメムシ類
京都府	注意報	2014/06/06	果樹全般	果樹カメムシ類
岩手県	注意報	2014/06/06	ねぎ	ネギアザミウマ
福島県	注意報	2014/06/09	モモ	せん孔細菌病
山口県	注意報	2014/06/10	ナシ、モモ、リンゴ等果樹全般	果樹カメムシ類
埼玉県	注意報	2014/06/10	ナシ	果樹カメムシ類
群馬県	注意報	2014/06/12	果樹	果樹カメムシ類
鳥取県	注意報	2014/06/13	ねぎ	べと病
広島県	注意報	2014/06/13	果樹全般	果樹カメムシ類

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）				
発信元	日付	作物	内容	
和歌山県	2014/05/19	チャ、ヒサカキ	チャトゲコナジラミ	
岡山県	2014/05/27	キウイフルーツ	かいよう病（Psa 3 系統）	
和歌山県	2014/05/29	キウイフルーツ	かいよう病（Psa 3 系統）	
静岡県	2014/06/06	キウイフルーツ	かいよう病（Psa 3 系統）	
山口県	2014/06/12	バラ（施設栽培）	コナカイガラムシ類の一種	
茨城県	2014/06/18	キウイフルーツ	かいよう病（Psa 3 系統）	

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

技術情報等（九州地方で発表されたもののみ）				
発信元	日付	作物	内容	
熊本県	2014/05/22	麦類	赤かび病の発生状況について	
福岡県	2014/05/23	果樹	果樹カメムシ類	
鹿児島県	2014/05/26	サトウキビ	カンシャコガネナガカメムシの防除適期について	
鹿児島県	2014/05/29	サトウキビ	イネヨトウの防除徹底について	
宮崎県	2014/05/30	施設野菜	次期作付のための病害虫対策について	
熊本県	2014/06/10	水稲	ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルスの保毒状況	
宮崎県	2014/06/13	早期水稲	斑点米カメムシ類の発生状況について	
熊本県	2014/06/13	果樹	果樹カメムシ類の発生状況について	
長崎県	2014/06/17	水稲	ヒメトビウンカの生息量及び保毒状況	
熊本県	2014/06/20	水稲	斑点米カメムシ類の発生状況について	
佐賀県	2014/06/24	施設野菜類	アザミウマ類コナジラミ類の防除対策について	

注：太字は佐賀県が発表したものを示す

6月1日～8月31日の3か月間は農薬危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

農薬散布後の止水期間は7日間です。水田用除草剤や本田粒剤の散布後7日間は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

農薬を使用する前に、必ずラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法を必ず確認しましょう。

農薬の使用は、正しく安全に!

農薬保管庫
必ず施設

いつものチェック、忘れずに!

- ✓ ラベルの記載事項を守りましょう
- ✓ 防護装備をしっかり着用しましょう
- ✓ 周辺環境への配慮をしましょう

平成26年度農薬危害防止運動
農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

農薬危害防止運動 検索

(農林水産省HPより)